

■講演テキスト

さまざまな地平を超える俳句

(ラフティ国際作家再結合2009講演テキスト)

夏石番矢

スロヴェニアで2000年9月に、世界俳句協会を創立して以来、ほとんど毎日、私は俳句を翻訳し続けてきました。私はその協会のディレクターを務めています。日本の人々はよくこう私に言います。俳句は日本語から他の言語に翻訳できないし、外国語の俳句は日本語に翻訳できない。それでは私は、意味のない仕事をほぼ毎日しているのでしょうか。

一週間前に、インターネットを通して、トリエステの子どもからわが書齋に、俳句を受け取りました。

Mani in movimento,
burrasca —
la vita è persa

Hands in motion,
a storm —
the life is lost

アンドレア・ダダッポ

次の日本語訳を作るのに、ほんの数秒しかかかりませんでした。

動く両手
嵐
命は失われた

季語がなくても俳句は首尾よく創作できますし、5・7・5音だけでなく、自由な形式でも十分に作れると、私は信じています。

少ししかイタリア語を理解できないにもかかわらず、この俳句は粗野ですが、すぐれているとわかり、英訳を参考にするとともに、伊和辞典の助けを借りて、簡単に日本語に翻訳できると思いました。日本語訳の驚きに満ちた響きと行と行の間の緊張関係が、私の想定したイタリア語原句に詩として肉迫してるので、私の和訳はかなりうまくいったと見なしました。

私の翻訳の仕事は、政治的文化的言語的境界を超えて、真の詩を発見したいという私の願望に基づいており、金もうけではなく、ボランティアです。

ある人々は、日本語が中国語の一種だと考えています。日本人が中国で生まれた漢字を借りていると言いましても、もちろん、これは大きな誤解です。これらの二つの言語は、文法的にはまったくことなっています。ご承知のとおり、日本語は孤立言語です。韓国語にも近くないし、ましてやモンゴル語にも近くない。日本語だけで詩歌を作っているのは、他の言語の光を浴びずに、ことばの暗闇のなかで踊っているようなものでしょう。

私の主な情熱は、詩のエッセンスとしての俳句を書くことです。全世界で俳句が最短の詩であるかどうか私は知りませんが、俳句と呼ばれる、極端に短く、生きた完全な詩を誕生させようと努めています。いくつかの例外はありますが、私は俳句をまず最初に日本語で書きます。

この20年間、私の俳句は、多くの言語、たとえば英語、フランス語、イタリア語、ポルトガル語、ロシア語、スロヴェニア語、マケドニア語、ブルガリア語、ラトヴィア語、エストニア語、リトアニア語、そしてもちろんフィンランド語に訳されてきました。ほとんどの場合、自分で翻訳するのを楽しみましたが、それは私の仕事の新しく隠れた性質を発見する助けになりました。

インドではじめての出版、『Endless Helix: Haiku & Short Poems／無限の螺旋 俳句と短詩』（サイバーウィット・ネット社）と題された本は、2007年に誕生しました。そこには、私の五〇句の俳句が、日本語、ポルトガル語、英語、フランス語、スペイン語、リトアニア語の六言語で収録されました。

無限の螺旋
黙して歌う
われらが体内

Espiral infinita
cantando silenciosa
no nosso corpo

An endless helix
sings silently
inside our body

Une spirale infinie
chante en silence
à l'intérieur de notre corps

Un espiral infinito
cantando silenciosamente
dentro de nuestro cuerpo

Begalinė spiralė
tyliai gieda
mūs kūne

これらすべての翻訳を十分に理解することができないことを後悔しながらも、私の俳句のさまざまな開花を見つけて、大きな喜びを味わっています。ことばの響きについては、日本語はかなり単純、ポルトガル語には活気があり、英語は鋭く、フランス語は洗練されており、スペイン語はかなり能動的、そしてリトアニア語は古代的で

言うまでもなく、これらの翻訳はことなっています。そのような違いは、われわれの星の言語上の多様性を反映しています。そのような違いを超えて、見えないけれども明確な真実と本質が、それぞれに保たれています。

日本語以外の言語によるすぐれた俳句を扱うさい、私は新しく啓示的な地平を発見します。次の俳句は、私たちの国際俳句季刊誌「吟遊」第43号（吟遊社、2009年7月刊）に、モロッコの詩人、モハメッド・ベニスからフランス語で投稿されたものです。

Des formes tremblent
À travers des explosions
Seule ici la quiétude

英訳は、

Forms tremble
Through explosions
Only here quietness

次に私の和訳を。

爆発をへて
かたちは揺れる
ここにただ平安

この詩は、暗示と情念に満ちています。今日連続して起きている惨事を連想させるだけでなく、われわれの物理的世界の赤裸々な真実も思い起こさせます。一篇のなかに、一つも具体的なイメージがないにもかかわらず。

俳句という詩は実に短く、だから俳句によるコラボレーションが、かなり芸術的な方法で可能です。たとえば、私の最新の句集『空飛ぶ法王 161 俳句 Flying Pope: 161 Haiku』（こおろ社、東京、2008年）は、日本語とジム・ケイションによる英訳で俳句を収めています。この本では、ヨハネ・パウロ二世が「空飛ぶ法王」と仇名されていたとしても、すべての俳句が、想像上の「空飛ぶ法王」を描いています。これらの二言語の俳句は、日本の芸術家、清水国治によるドローイングによって活性化されています。ドローイングは、俳句の間に配置されています。

墨で描かれたドローイングは、単純で印象的です。半ば具象的で、半ば抽象的です。それにもかかわらず、それらは俳句を説明していません。たとえば、39ページのこの句について考えてください。

オーロラが別れに揺れて空飛ぶ法王

Aurora quakes
at the parting...
Flying Pope

日本語原句は、悠長でいささか感傷的であるのに対して、英訳は、あらゆる悲しい別れを沈黙のうちに喚起します。最高度に、これらの日英版は、互いを活気づけるようになっているでしょう。

この俳句のために清水国治が作ったドローイングは、直接的に「オーロラ」や「空飛ぶ法王」を表現しようとする意図から自由です。そのかわり、強く柔軟な線によって形成された二つの形が、かすかにこれら二つの対象をほのめかしています。その結果、この書物の39ページは、日本語と英語、文字とドローイングの間の相互活性化の現場となっています。

豊かな翻訳を伴う俳句、感度のいいコラボレーションを伴う俳句は、コンパクトで広がりを生む芸術宇宙を私たちに提供してくれます。